

日本とギリシャの共通した聖地の決め方

長谷川 彰

ギリシャの旅でミケーネ遺跡を尋ねたとき、現地のガイドがこの聖地の位置は山岳と太陽の運行で決められていると聞いた。しかし、その詳細は又聞きであったこともあり、遺跡のどこの位置に相当する話かもわからないままであった。そこで1976年にシュリーマンが「アガメムノンのマスク」などを含む 14Kg もの黄金製の財宝を発掘した Grave Circle A と B の中心位置に於ける太陽の運行をシミュレーションで見たところ、興味深い結果が出た。また、デルファイのオンファロスでもさらに驚く結果が出たので報告する。同時にギリシャに出発する直前に日本で発見した遺跡と太陽の運行も合わせて報告する。ついでに卑弥呼が没した前後の日食のシミュレーション結果も追加した。

1. Grave Circle A に於ける天体シミュレーション



図1 紀元前 450 年 9 月 19 日(秋の彼岸)6 時 36 分(現地標準時)の日の出

図1は Grave Circle A(北緯 37 度 43 分 49 秒 57、東経 22 度 45 分 23 秒 18)の中心位置から見た紀元前 450 年 9 月 19 日(秋の彼岸)の日の出をシミュレーションしたものである。ここでは、付近にある山とさらに遠方にある山が重なった特異点のちょうどピンポイントの位置から太陽が現れるのである。

言い換えれば、**一年に一回しかない、秋の彼岸にちょうど山の頂上重なった、しかも角があってわかりやすい位置から日が出る。**太陽の登る位置は一日過ぎると図1右側にある次の段(この段はシミュレータの地形データの粗さが出ている)から太陽が昇り、近傍の山の影から外れるので、確実に秋の彼岸を知ることができる精度を持っている。シュリーマンがこれを知っていれば、この財宝をさらに容易に発見できたに違いない。シミュレーションは紀元前 450 年としたが、秋の彼岸、春分であれば地球の歳差運動による黄道傾斜角の変化を考慮しても、年度に関係なく同じ位置から太陽が出る。

「彼岸」はサンスクリット語の「パーラミター＝波羅蜜多」の意味で、「生死の苦しみである現世を離れて、極楽・安楽国に到達するという意味」であり、この位置が墓(Grave)であるのでその意味も合致している。ギリシャ語では、彼岸花＝リコリアス(海の女神)の意味もあるが、この関係は不明である。



Grave Circle A



アガメムノン

ちなみに、同じ遺跡にある Grave Circle B(北緯 37 度 43 分 53 秒 62、東経 22 度 45 分 19 秒 93 の位置でシミュレーションをすると、図2で示すように、紀元前 450 年 9 月 29 日(秋分の日)6時 39 分に図 1 と同じ位置から日が昇る。



図2 紀元前 450 年 9 月 29 日(秋分の日)6時 39 分(現地標準時)の日の出

2. 地球のへそ石(デルファイのオンファロス)に於ける天体シミュレーション



図3 紀元前 450 年 3 月 9 日 7 時 12 分(現地標準時)の日の出(部分食)



デルファイの Omphalos (複製)

北緯 38 度 28 分 54 秒 45、東経 22 度 30 分 05 秒 08

こちら図1と同じように近傍の山頂(赤線で示す)とその裏にある山の山頂の重なる点から日が出る。しかも部分食であるが**日食の状態**で日が出る。このような現象は恐らく二度とおきないほど珍しいもので、シミュレータで検証しても、**その後現在まで一度も欠けた太陽がこの場所から現れたことがないことでもそれがわかる**。オンファロスが数ある中で、デルファイのものが有名になった隠れた理由かも知れない。ギリシャ神話では、ゼウスが世界の中心を知るために2羽の鷲を放ち、2羽が交差した場所を世界の中心とした位置にデルファイのオンファロスがあるとされている。

3. 縄文遺跡の位置と太陽の運行に関わる重大な発見(ギリシャと相似)

先に、ギリシャの遺跡と太陽の運行について報告したが、同じ天文シミュレータを使用して重大な発見をしたのでここに報告する。「縄文ランドスケープ」が小林達雄編著としてアム・プロモーションから 2005 年に出版されている。この本は平成9~11年度文部省科学研究(B)(1)(課題番号 9410107)成果報告「縄文時代に於けるストーンサークルおよび関連記念物の設計とランドスケープ」を書籍にしたものである。

ここでは、山梨県都留市にあった牛石遺跡から三ツ峠山を望むと春分の日はこの山頂に日が沈むと書かれている。しかし、神社の配列規則であるHSCPから見ると疑問があり、3月21日春分の日に現地へ行ってみた。しかし残念ながら当日は曇り、太陽の正確な位置がわからなかった。そこで先のシミュレータを使うことになった。



図4 牛石遺跡から見た紀元前 2000 年 4 月 7 日(春分)の落日(17時58分)



図5 牛石遺跡から見た紀元前 2000 年 11 月 5 日(秋の土用)三ツ峠山山頂への落日(15時53分)

結果は予想通りであった。これまで考えられていた図3で示す春分の落日では、山の中途半端な位置に落日して正確にその日にちを知ることができない。ところが**秋の土用では三ツ峠山の尖った山頂に正確に落日するのでその日を正確に知ることができる**。牛石遺跡の名は旧地名からきているとのことである。土用は丑の日とも

呼ぶ、恐らく牛石の地名はその丑の日から名付けたに違いない。

先の書籍の記載が間違っていることは神社の配置からすでにわかっていたことである。図5に示す三ツ峠山、牛石遺跡、寸沢嵐石器時代遺跡はどれも神社群中心(周辺の神社から引いた直角線の収斂点)の位置にある。この三点が正確な直線状にある。信頼性を疑問視されているレイラインのように単なる線を結んだ手法と異なり、桁違いに信頼性の高い線である。このような事象が偶然にして起きることは考えられない。明らかに計画的に神社が配置されている証拠でもある。この線と遺跡から見た落日の方向が完全に一致していたのである。今年
は10月21日15時47分31秒に同じ位置へ落日する。



図6 三ツ峠山－牛石遺跡－寸沢嵐石器時代遺跡は正確な直線上にあり、ピギーバックも成立

ポイント名	住所	緯度	経度	緯度, :経度(10進)	内角
牛石遺跡	山梨県都留市厚原1016付近	353336.10	1385354.07	35.560027, 138.898352	-
三ツ峠山	山梨県南都留郡西桂町下暮地	353257.40	1384833.11	35.549277, 138.809197	-
寸沢嵐石器時代遺跡	神奈川県相模原市緑区寸沢嵐	353558.64	1391327.86	35.599622, 139.224405	-
若宮神社	山梨県都留市金井242	353356.57	1385348.32	35.565713, 138.896755	90.02°
南郷神社	東京都西多摩郡檜原村南郷6124	354215.53	1390733.86	35.704313, 139.126072	89.75°



←寸沢嵐(すわらし)石器時代遺跡

学会では住居跡とされているが、以前から主張しているように、この遺跡は住居跡ではない。位置を表示するための何らかの建造物の跡に違いない。

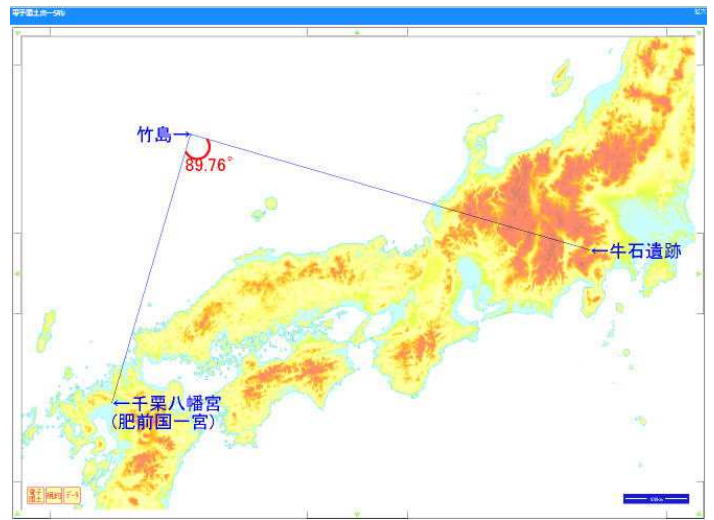
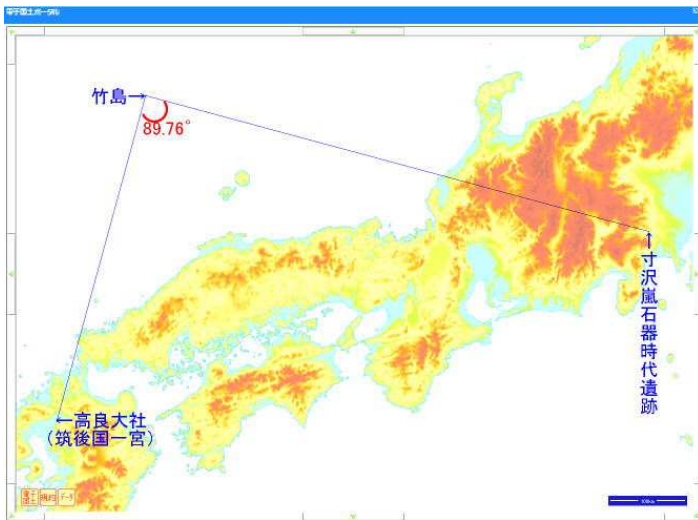


図7 牛石遺跡—竹島—千栗八幡宮 89.76°

図8 寸沢嵐石器時代遺跡—竹島—高良大社 89.76°

図7、図8に示すように、牛石遺跡から引いた線は竹島を経由して 89.76°で肥前国一宮である千栗八幡宮へ、寸沢嵐石器時代遺跡からは同じ 89.76°で竹島を経由して筑後国一宮である高良大社に到達する線を持つ。これはこれまで説明してきた、環状列石と一宮が持つ特性と同様であり、高良大社だけを特別視することはできない。九州王朝説では筑後国一宮である高良大社の祭神、玉垂命が歴代倭王であったとの説があるが、はたしてそれは正しいのか疑問である。

図7、図8の関係は偶然では決して起き得ない事象であり、明らかに何らかの意図を持って一宮と環状列石や配石遺構が配置されたものであることは疑う余地のないことである。古代人が狭隘な地理感しか持っていなかったとする先入観から思い付いたとみられる九州王朝説のような考え方は図7や図8を合わせ、通史で説明を付けることができなければ、納得することができないのである。

今回使用したシミュレータ(ステラナビゲータ10、2014年版)は—1999年～3000年の5千年に渡る11,898個の日食詳細データNASA/TP-2009-214174(「5000年日食予報」、2009年7月)の274ページもある膨大なデータを元にして造られたもので、これまで問題となっていた地球の回転ムラで起きるΔT(DT-UT)の問題を解決した精密なものである。

4. 卑弥呼が没した年と翌年の日食シミュレーション(おまけ)

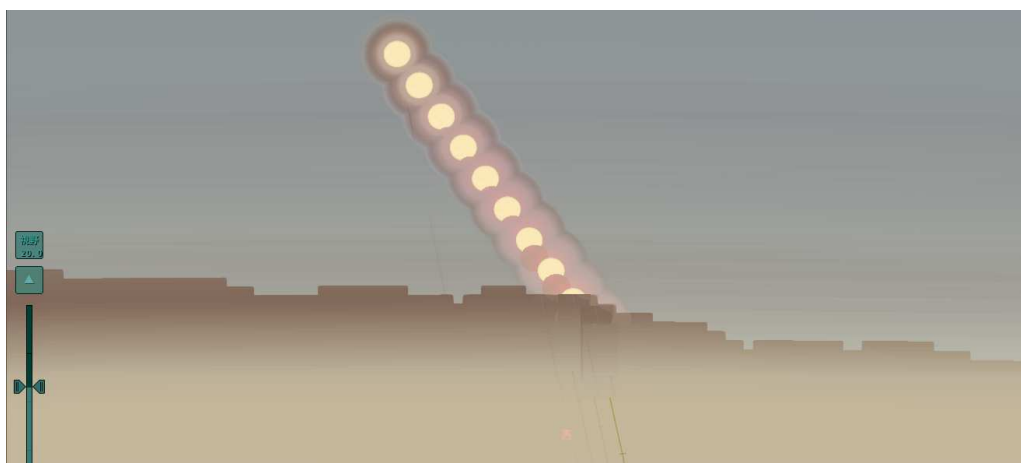


図9天香久山に於ける落日 247年3月24日17時57分(欠けが少ない状態で落日)

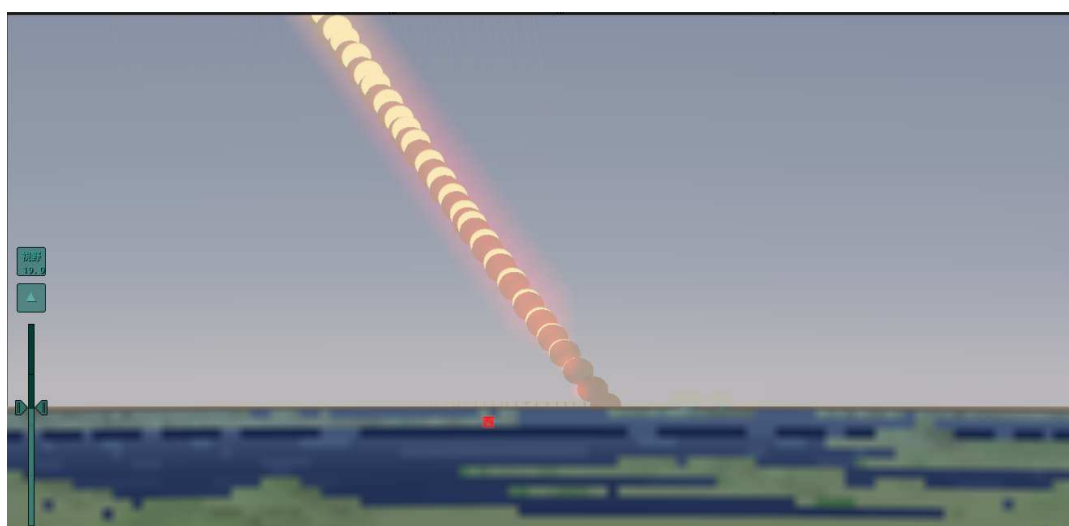


図10 高祖山から見た落日 247年3月24日18時32分(皆既日食の状態で落日)

図9は天香久山の山頂で見た卑弥呼の没年とされる247年の3月24日の落日である。ここでは標高152mの天香久山でもあまり欠けずに落日する。図10は高祖山山頂(福岡県糸島市)から見た同じ日の落日である。ちょうど、太陽が完全に隠れた状態で落日するので、これを見た時はこの世の終わりのように感じたに違いない。しかし、天香久山などの近畿地方で見た落日は、落日の直前に少し欠けるだけで、平地であれば周辺の山などに隠れてしまい、日食そのものを知ることもなかったであろう。

ちなみに、ページの都合で図を省略するが、同じ九州でも福岡県朝倉市甘木(甘木郵便局の位置)から見た同じ日の落日は三日月状に落日するので、この世が終わるようには見えない。

次に、まるで話のようにでき過ぎたことであるが、卑弥呼没年の翌年248年も皆既日食があった。皆既日食が続いて起きたのである。しかし、これは間違いなく事実の出来事である。

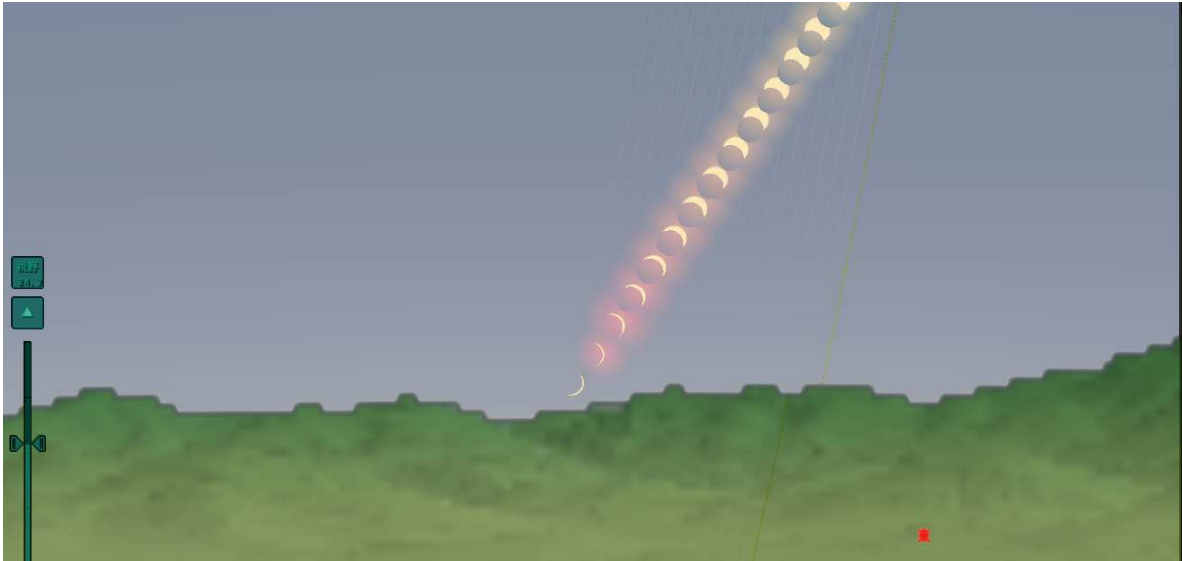


図11 天香久山から見た日の出 248年9月5日5時43分(消えた太陽が戻るように日が出る)

図11は天香久山から見た248年9月5日5時の日の出の状態である。ここでは前年の落日と異なってまるで太陽が再生するような日の出を見ることができる。この現象は驚くことがあっても、太陽がなくなってしまうような恐怖感を与えるようなことはなかったと考える。



図12 高祖山から見た日の出 248年9月5日5時59分(消えた太陽が戻るように日が出る)

図12は同じ日の高祖山から見た日の出である。こちらも近畿で見たと同じように、消えた太陽が再生するような日の出を見ることができる。

注;使用したシミュレータは太陽の軌跡を残すようにしたとき、太陽が落日した瞬間に地形のコントラストが急変して見えなくなってしまう問題がある。その消えた地形図を合成や特定の色を強調するなどの方法で再生する必要があった。図12にある横に伸びる縞状の線はその処理の過程で入れた線但实际上にはない線である。また図10の水平線には多少の凹凸した部分があったが、同様な処理で欠落した部分もある、これは太陽の位置と重ならない部分であるのでそのままにしてある。

5. おわりに

以上に述べたように、日本の遺跡の位置も、ギリシャの遺跡の位置も同じように太陽の運行と山岳の位置によって左右されていることがわかった。しかし、ギリシャの場合は遠・近相互にある山岳の重なる部分の頂点を利用している特徴がある。まだ3例でしかないのに、全部がそのようになっているかどうかは不明であるが、未知の遺跡の位置を探索する一つ方法になる可能性がある。ギリシャの聖地が驚くほど急傾斜で凹凸の激しい場所に聖地がある理由は、山岳の重なった頂点が見える位置を聖地として利用しようとする、必然的にそのような凹凸の多い場所になってしまうのではないかと考える。

日本では、山梨の牛石遺跡にも見られるように、単純に尖った山のピークを利用して、遠近の山岳が二重に重なる点を利用した例はまだ見つかっていない。この理由は、日本は神社の配置でそれに代わるものを持っているので、単純に落日点を一つの山頂にすることができたものと考えている。もし、この考えが正しいとすると、ギリシャに於ける聖域の配置状況から、日本のように歴史的な情報を得ることが困難であることを示しているのではないかと考えている。なぜこのような差が生まれたかは興味ある問題であり、その回答も持っているがここでは省略する。

ところで、「縄文ランドスケープ」小林達雄編著 166 ページにある秋分の日三ツ峠山に落日する様子は確かにその通りであるが、はたしてこのいい加減な場所に落日していることは古代人が意図していたことではなかったのではないかとする疑問が大きくなった。とすると、ほかの遺跡でも同様な勘違いが生じている可能性があるかと推測される。

デルファイ(ギリシャ)のオンファロスの例では、互いに重なる二つの山頂と、日食の起きる点の三重点を利用していた。牛石遺跡の例では、三ツ峠山-牛石遺跡-寸沢嵐石器時代遺跡の三重点を利用していたのである。同じ例がほかにないか検討したところ、三内円山遺跡(大型木柱列)、大湯環状列石(万座)でも明らかな三重点があることがわかった。いずれの場合も牛石遺跡と同じようにその三重点を結んだ線分にピギーバック配列があり、その頂点はすべて神社群中心であるとする特異な特徴も持ちあわせている。

非常に不可解なことであるが、時代が異なると考えられる東乗鞍古墳(天理市杣之内町乗鞍)でも真東に向かって山頂(都介野岳)、敏太神社(式内社、三重県松阪市美濃田町950)の三重点があり、ここでもピギーバック配列が成立しているのである。東乗鞍古墳は典型的な干字状パターンも持ち、非常に興味のある神社とも関係している。しかし、私が考えている神社の始まりと6世紀中とされる東乗鞍古墳の年代が整合しないのである。本当に不思議なことがあるものである。このように、ギリシャの聖地からヒントを得た、三重点の考え方から、新たな大きな発見が期待される。

おまけに書いた卑弥呼の没した前後の日食シミュレーションはありのままその結果を書いた。もちろん、その観測点を見れば何を言いたかったかわかるはずであるので、ここではその結論を省略する。

参考 <http://w312.k.fiw-web.net/hscp/> 「神社はなぜそこにあるか？」